

第3章 地域の計画

3-1. 前提

1. 地域区分

“まち場”は地域の雰囲気醸成し、景観構造の基礎・基盤であり、市域のなかでそれぞれのアイデンティティを持っている。“まち場”を整備する、あるいは景観形成をすることは、景観形成の対象をこの基盤と関係づけながら、周囲と調和させることである。このことにより、さらなる“場らしさ”が醸成されることとなる。

西谷地域・中間地域は比較的独立した地域として景観形成においても、基盤となる自然景観が優勢であり、独自のエリアとして扱う必要がある。

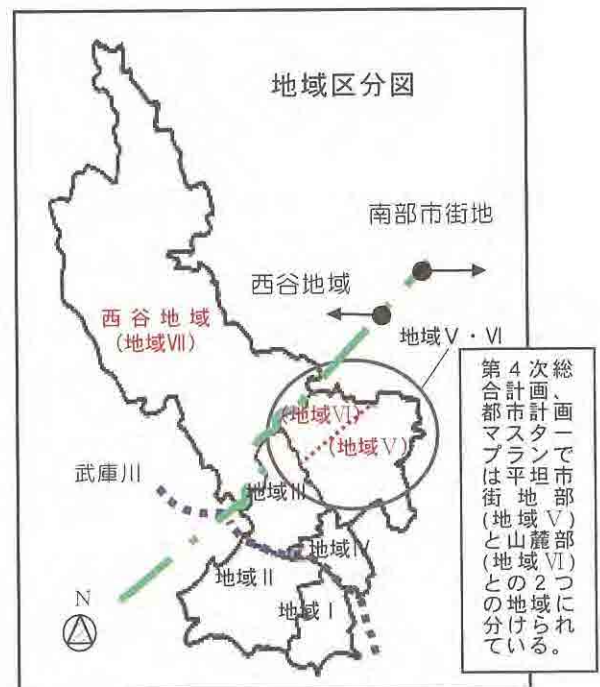
南部市街地については、山腹部・山麓部住宅地群と平坦部の市街地より構成されている。山麓部のまち場は、第1種低層住居専用地域で建築物の高さが10mに制限されており、低層戸建を中心とした本市の住宅地の特性を形成する景観となっている。山麓部の“まち場”は、おおむね阪急宝塚線以北、今津線以西の地域である。一方、平坦部は阪急宝塚線またはJR宝塚線の以南、阪急今津線の以東の地域であり、多様な景観の表情を持っており、それぞれの地域において“まち場”としての特性を持っている。

市全体の基本的な骨格づくりとともに、地域の特性を活かして日常生活における親しみのある身近な景観をつくっていくことが重要である。地域の幼稚園・小・中学校等の学校、公園、公共施設、社寺、最寄商業施設群等の地域を代表する施設や道路・小径、小河川・細水路などについて、地域住民の関心を高め、使い・なじむ景観づくりが望まれる。

このような背景を踏まえ、基本計画では、原則として、コミュニティや日常生活圏等を考慮して設定された「たからづか都市計画マスタープラン（平成9年3月）」を基に、6つの地域（地域Ⅴ・Ⅵとしているので実質は7つとなっている）に分け、地域ごとに特徴となる景観、地域レベルの骨格となる景観形成の方針を示す。

地域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ・Ⅵは、山麓部の“まち場”と平坦部の“まち場”を有する地域であり、ここでは地域の骨格を形成する道路や河川軸、主な公共施設等の拠点について、基本理念をふまえ、地域の景観特性と基本的な景観形成の方向を示す。

地域Ⅴ・Ⅵについては、宝塚市総合計画、都市計画マスタープランでは2つの地域に分けられているが、歴史的な繋がり、地域の発展の経緯等密接な関連を持っている。河川流域についても、天神川、最明寺川等の流域として山間中腹部から平坦部まで川上、川下の関連を持っている。さらに、伊丹市地域と隣接関係にあつて、農業地としての風土の変遷を表わしている。



この地域は、山並み部から山部、平坦部に繋がる本市の都市景観の構造をそのまま持つており、景観の骨格形成や水と緑のネットワーク形成においても同一区域（地域Ⅴ・Ⅵ）として考えるのが好ましいと考えた。

2. 地域ブロックⅠからⅦの計画では、市民生活に密接に関わる以下の要素に視点を置いて計画する。

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ① [山・緑] | 地形、社寺林、まとまりある緑地、公園 等 |
| ② [川・水面] | 中小河川、ため池、水路 |
| ③ [道路等軸空間] | 補助幹線道路、主要区画道路、特徴的な生活道路の沿道 |
| ④ [拠 点] | 駅前等商業地区、社寺と参道、公園 等 |
| ⑤ [特徴的な建物・
公共施設等] | 小・中学校、歴史や個性を有する建物住宅、会館・図書館 等 |

3. 地域別計画の考え方

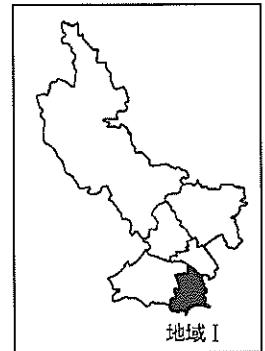
「3-2. 地域別計画」は地域ⅠからⅦについて計画を示すが、“まち場”ごとの景観整備の実際は、市民の参画を得て進めるものとする。

個々の景観形成を進める場合、“まち場”の景観デザインを検討し、それにより、誘導するのが適切な方策である。

3-2. 地域別計画

1. 地域Ⅰ

地域Ⅰは、2-4、2.(3)-2) “まち場” の特性に示した6つの“まち場” (101~106) が景観基本構造で結ばれ、構成している。



(1) 景観特性

地域Ⅰは、①六甲山系の東面の山麓または小丘陵に昭和初期から現在までに立地する住宅地と②台地平坦部の古くから開けた街並みによって構成されている。前者は阪急今津線以西に位置し、後者は同線の東部に広がる。

開発の歴史、地形、水系との関係、建物の形態、道路網などから景観単位として5つの“まち場”が抽出できる。塩瀬門戸の荘線は“まち場”を縫い合わせ交通の流れを都心に北上させる。沿道景観が変化しつつある。古くは旧良元村の中心があった小林を通る西宮街道は今も人々がふれあう生活道路となっている。

背景には六甲山系の大屋根と隣接する甲山が特徴的である。

これらの山間部を武庫川に向かって流下する水系が自然を演出している。弁天池で水量調節され流れる小仁川、市域南部の境界となる仁川、宝塚ゴルフ場上部から逆瀬川の分水である小林水路と武庫川からの分水は御所水路となってこの地域を南下する。

広域レクリエーション施設阪神競馬場は、施設規模の存在感と開放性を持つ。教育施設の小林聖心女子学院が立地し就学者がひろく通学する。地域の社会的な核としては、阪急電鉄駅前商業核、西公民館・西図書館、宝塚保健所、小学校5校、中学校2校が立地するとともに、まち場102の小林と202の逆瀬川(町名からⅡ地域に入っている、旧良元村)と一体となっている宝塚神社・平林寺、素蓋鳴神社、熊野神社などとともに幼きイエズス修道会は、歴史的に街並みと共存し、社そう林などにより緑地景観をもたらしている。

<主な景観資源>

	地域の景観資源	市全体の景観資源
山、緑	平林寺、宝塚神社一帯、素蓋鳴神社等の社そう林、イエズス修道会周辺、小林聖心女子学院敷地、弁天池周辺	山並み 宝塚(阪神)競馬場周辺
川・水面	御所水路、仁川、小仁川、高丸川	武庫川、弁天池
道路	宝塚西宮線、荒地西山線、武庫川通線	宝塚仁川線、宝塚池田線、阪急今津線
拠点	仁川駅前地区、小林駅前地区 小学校(高司、仁川、未成、光明、良元) 中学校(高司、宝塚第一)	宝塚(阪神)競馬場
歴史的文化施設等 特徴のある建物、 公共施設等	小林聖心女子学院 神社・仏閣等の歴史的施設	西図書館・西公民館

(2) 基本目標

- ・生活と自然が調和し、山並みに抱かれた丘陵地としての多様な街並み景観を維持発展させる。新たな景観要素は既存の景観特性に調和するようにまち場の造形を行う。
- ・阪急電鉄今津線以西は六甲山系に囲まれ近現代期に開発された丘陵居住地景観文化を洗練していく。
- ・阪急電鉄今津線以東は、広域レクリエーション施設、武庫川、御所水路、さらにはまちの拠点が立地しており、これらを足がかりにして、人々の交流と創造活動が育まれる市街地景観を形成していく。

(3) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

①水と緑のネットワークによる都市景観づくり

- ・武庫川右岸の整備、・街園、公開空地、駐車場等の緑化を中心とした景観整備

②沿道・沿線の都市景観づくり

- ・幹線道路とともに、他に“まち場”に歩行者ルート網を設定した景観整備

③小林駅・仁川駅の地域核としての都市景観づくり

④公共空間とその周辺の焦点としての都市景観づくり

- ・小林駅前地区(西宮街道に沿った歴史的文化・商業拠点として)、 阪神競馬場小学校(良元小、光明小、未成小、高司小、仁川小)、中学校(高司中、宝塚第一中)

⑤各まち場の特性を保全・育成した地域景観づくり

(4) 主要な景観づくりの方針

○仁川・小仁川・高丸川・御所水路・弁天池を軸とする水と緑のネットワーク

- ・遊歩道整備等の豊かな水辺環境を楽しめる親水空間づくりや川岸緑化により、山並み部と低地部を繋ぐ緑の軸空間の創出と水と緑のネットワーク形成を図り、良好な眺望を確保する。
- ・水質浄化や清掃美化に努め、河川沿い敷地の緑化や建築物等の高さ・デザインの規制誘導を進め、地域一帯で快適で魅力的な水辺空間を維持する。弁天池は、良好な環境保全に努める。
- ・学校施設につながる小川と交差する街路を緑のネットワーク重点路線とし、緑化と快適な歩行空間の確保を進める。小林聖心女子学院一帯の樹林地は塔とともにランドマークとして、周辺からの見通しに配慮する。くわえて、学校等の面的な施設をこれらのネットワークの拠点として位置づけ、水と緑のネットワークに広がりを持たせる。

○沿道・沿線の景観づくり

- ・宝塚仁川線・宝塚池田線・武庫川通線・荒地西山線などは、“まち場”の特性にあわせて歩道の美装化、街路樹の育成、沿道の建築物・広告等のデザイン誘導や緑化を図り、安全で快適な道路空間を創る。
- ・商業施設や工場が複合する宝塚西宮線では、建築物等の簡潔なファサードデザインや緑化スポット的な憩いの場の創出などにより、楽しく歩ける沿道景観づくりを進める。
- ・旧西宮街道は歴史的趣きを感じる道路としてデザイン・サイン・看板等を誘導する。また

歴史的資源を生かし、歴史的な小広場の整備を検討する。

○駅前周辺の地域核景観づくり

- ・住宅地の玄関口となる仁川駅及び小林駅では、駅前広場の整備など生活拠点として親しみと賑わいのある、くわえて歴史的文化的の感じられる景観形成を行う。商業地の建築物等はデザインの規制・誘導や看板・サイン等の屋外広告物規制、色彩計画等を検討し地区の核にふさわしい景観を創る。
- ・鉄道等の魅力ある車窓景観づくりを目指し、沿線の緑化にあわせ屋外広告物や看板、背景の山並みやシンボル施設への眺望等に配慮したルールづくりを進め、景観の向上を図る。
- ・宝塚（阪神）競馬場は、周辺及び敷地内の緑化推進や施設開放等の充実を図り、仁川駅前一带が本市の南の玄関口として特徴的な景観づくりを進める。

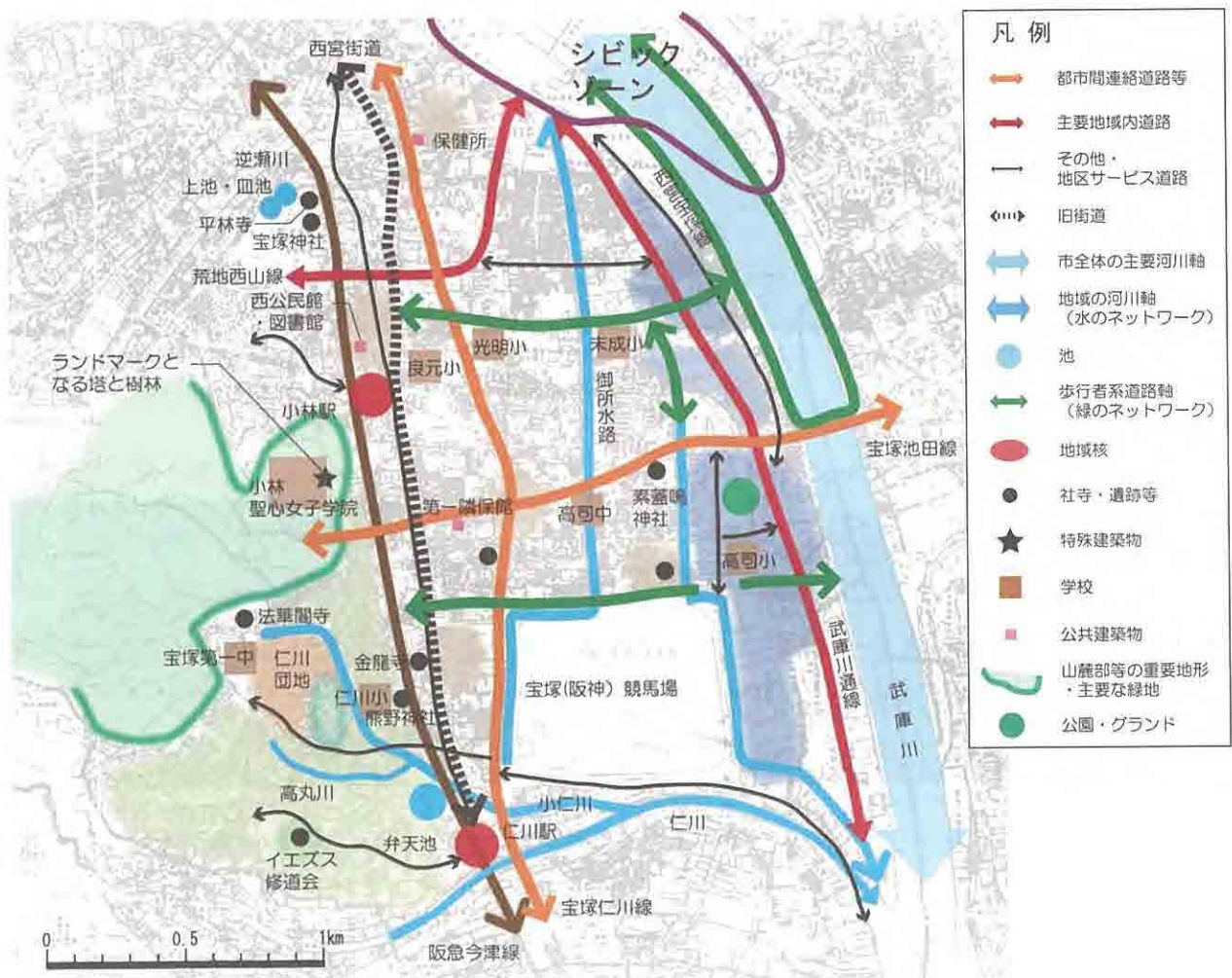
○公共建築物等とその周辺の景観づくり

- ・景観資源に示した学校、公民館、福祉施設等の公共施設は、生け垣化や周辺地域に開かれた憩いの空間づくりを進めるとともに、水と緑のネットワークの拠点とする。

○地域の歴史を大切にした景観づくり

- ・五ヶ山古墳群や神社・仏閣を歴史的環境として保存・活用するとともに、文化財や素蓋鳴神社・宝塚神社・平林寺・金龍寺・イエズス修道会周辺緑地および社そう林等の保全と憩いの場としての整備を進める。

図3-1 景観形成方針図（地域Ⅰ）



「地域」の景観

<101>から<106>の6つのまち場で構成される。



小仁川を上流へ
快適な居住地ルート
<102> (26-27)



自然の景観資源は住宅地を豊かにする
仁川弁天池小仁川の調節池付近
<102> (86-16)



仁川北、仁川月見ガ丘等では、
戦前の風情の居住地景観
<102> (27-37)



仁川団地昭和30年代初期に開発
された低中層の集合住宅団地
<102> (26-16)



仁川月見ガ丘・仁川高台の
居住地景観<102> (27-4)



仁川高台の居住地内
公園まわり
<102> (27-26)



小林塔の町の
小林聖心女子学院の塔
<105> (28-34)



小林にある西公民館
阪急小林駅から公園を介して
<105> (77-1)

「地域」の景観 つづき



小林 人情感のある街並み景観
<105> (77-9)



小林近隣商業
新たな近隣商業が加わる
<105> (42-25)



小林：塩瀬門戸荘線
(宝塚仁川線) 沿道景観
<105> (13-5)



御所水路
光明町等の街並みを通る
<104> (53-35)



近隣商業と街区公園樹木による
近隣核景観<104> (54-2)



光明町などの住居群景観
御所水路に流れる細網水路
<104> (53-32)



社町の宝塚神社 (小林)
西宮街道の立寄場所
<202> (54-21)



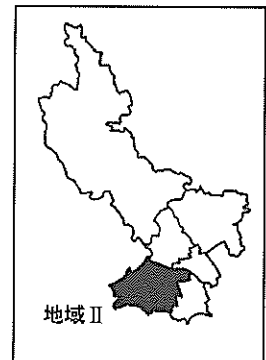
社町の平林寺など (小林)
西宮街道の立ち寄り場所
<202> (54-25)



社町にある上池宗教施設と
連結する小林の水源
<202> (70-25)

2. 地域Ⅱ

地域Ⅱは、2-4、2.(3)-2) “まち場” の特性に示した9つのまち場(201~209)が景観基本構造で結ばれ、構成している。



(1) 景観特性

地域Ⅱは、六甲山系の山なみの緑を背景にした南・東斜面にあり、比較的急峻な傾斜を持ち地形的変化に富み、斜面緑地やゴルフ場の芝生が緑豊かな景観をつくっている。

緩やかな傾斜地となっている山麓部の逆瀬台、武庫山、寿楽荘は閑静で良好な戸建て住宅地となっており、市街地への眺望も開けている。くわえて、逆瀬川、支多々川等の小川がこれらの住宅地に、ほど良いオープンスペースとなるとともに、道路との結節点では、傾斜に応じた眺望が東部の長尾山山系やふもとの住宅地、南部の大阪平野、さらに西部に六甲山系へと広がり、住宅地景観に変化を与えている。

観光プロムナードの一角にある宝塚南口駅周辺、温泉街等は宝塚駅周辺と一体となって宝塚の都心となるシンボルゾーンを形成しており、市役所等の公的施設が集まるシビックゾーンとともに市全体の中心地として、武庫川と一体となった近代的な都市景観が形成されている。

<主な景観資源>

	地域の景観資源	市全体の景観資源
山・緑	伊和志津神社等の社そう林 企業グラウンド跡地、	山並み、ゴルフ場 ゆずり葉緑地
川・水面	逆瀬川、観音寺川、支多々川、 塩谷川、亥の谷川、皿池、上池	武庫川、 武庫川右岸沿いをプロムナード整備
道路	地域幹線道路 逆瀬川米谷線、荒地西山線、宝塚駅南口線、 地域内幹線道路、補助幹線道路等 旧西宮街道	観光プロムナード沿道の建築物等の景観整備 塩瀬門戸荘線(宝塚仁川線)、 明石神戸宝塚線、武庫川通線、 阪急今津線
	その他 桜の道(山手幹線・寿楽荘・千種等) 山陽自然道に通じるハイキングコース等	
拠点	逆瀬川駅周辺地区、宝塚南口駅周辺地区 小学校(末広、第一、西山、逆瀬台) 中学校(宝梅、光ガ丘)	シンボルゾーン(市役所、西消防署等) シビックゾーン(宝塚駅周辺地区、 湯本再開発ビル群、宝塚ホテル、 サンビオラ等)
歴史的文化施設等特徴のある建物、公共施設等	宝塚聖天寺、妙法寺等の神社・仏閣等の歴史的施設	塩尾寺 甲子園大学、 宝塚高校、宝塚西高校

(2) 基本目標

- ・シビックゾーン武庫川右岸、逆瀬川駅前の地区中心、観光プロムナードへの出入り口となる宝塚南口駅地区中心の都市空間を魅力のある都市景観をつくる。
- ・観光プロムナード、逆瀬川米谷線、武庫川右岸堤防道路を代表的なプロムナード景観として保全整備する。
- ・水の流れが立体的に見える逆瀬川（白瀬川を含む）、支多々川、塩谷川の河川がもつ自然を生かした都市景観を保持し形成する。
- ・近代期から現代期に至る各時期の居住文化を知ることができる庭付戸建て住宅地による居住景観を保全し育成する。
- ・都市景観の核として公共施設空間の整備を図る。

(3) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

- ①水と緑のネットワーク景観づくり
- ②都市幹線・都市内幹線道路などの沿道景観づくり
 - ・観光プロムナード、逆瀬川米谷線、武庫川右岸堤防道路のプロムナード景観の保全と強化整備
 - ・塩瀬門戸荘線、明石神戸宝塚線、宝塚西宮線（武庫川通線）の沿道景観
 - ・地域内幹線道路・補助幹線道路などの歩行者ルート景観に配慮した居住地景観の育成・整備
千種・小林ルート、白瀬川・野上・逆瀬川ルート、逆瀬台地区内幹線ルート、宝塚南口・山下橋・青葉台ルート、山下橋・宝梅・光ガ丘ルート、宝塚南口・山手幹線・寿楽荘ルート、紅葉谷・塩尾寺ルート（甲子園大学から山陽自然道へのルート）
- ③シンボルゾーン内の観光プロムナード沿道の温泉街・宝塚南口・サンビオラ・宝塚ホテル、地域中心の逆瀬川駅周辺地区(アピア等)の賑わいと魅力ある都市景観づくり
- ④シビックゾーンでの整備プロジェクトや関係するまち場との協調
- ⑤地域の歴史のサインとなる場の景観づくり
- ⑥各まち場の特性を保全・育成した地域づくり

(4) 主要な景観づくりの方針

○水と緑のネットワーク

- ・逆瀬川の護岸の緑化を保全し、河川沿いに遊歩道（緑道）を整備し、市民の憩いの場とするとともに基幹的な水と緑のネットワークを創り、豊かな河川空間を創出する。
- ・支多々川、亥ノ谷川、塩谷川、観音寺川は水に親しむ水辺空間を整備する。
- ・散策路としての桜並木を生かし、川沿いの道路や公園・学校などを結ぶ「桜の道」ルートを設定するとともに沿道宅地の緑化を推進し、快適な歩行者空間を創出する。
- ・企業グラウンド(跡地)を誘導し公園の整備を推進する。山麓の公園では、市街地からの眺望に配慮した樹林の保全・育成に努めるとともに市街地等への眺望点として整備する。
- ・既存の街区公園は、地域住民の創意を取り入れた個性ある公園に適宜リニューアルする。

○地域幹線道路等の沿道の景観づくり

- ・逆瀬川米谷線などは、沿道の土地利用と建築物等の景観の調整を行い、道路の特性に合わせた景観の形成を図る。くわえて、歩道的美装化の維持、街路樹の育成、沿道の建築物・広告等のデザインや緑化を誘導し、安全で快適な道路空間を創る。
- ・宝塚駅南口線などの地区サービス機能を持つ道路は、安全で快適な親しみのある道として、沿道空間・沿道景観を整備し街並みを整える。くわえて、道路空間のしつらえに配慮し、安全でわかりやすく快適な道路空間にする。

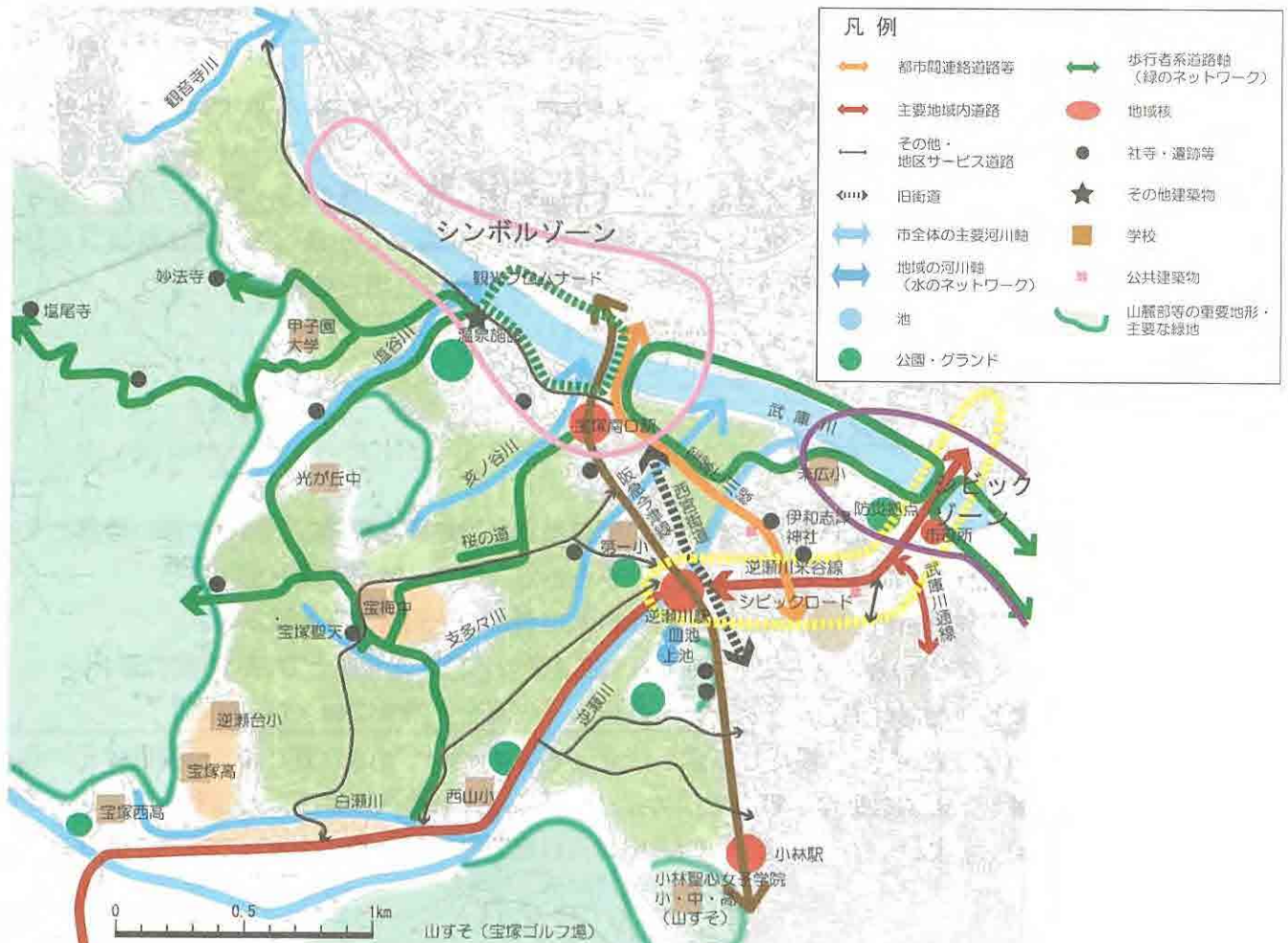
○地域商業核としての駅周辺のにぎわい・魅力景観づくり

- ・逆瀬川駅周辺地区および宝塚南口駅周辺地区等の地域の中心地については、沿道の建築物等の景観形成、看板・サイン等の広告物の規制・誘導、色彩計画の検討などを行い、地域の拠点及びシンボルゾーン・観光プロムナード・シビックゾーンへの玄関にふさわしい、魅力的で宝塚のアイデンティティを高める景観をつくる。

○地域の歴史を大切にした景観づくり

- ・伊和志津神社等の歴史的・伝統的建築物等を保全し、社そう林等の保全・活用を図り、憩いの空間の充実を図る。特に、宝塚神社一帯の東側市街地への眺望を大切にする。
- ・西宮街道は、歴史を感じる道路として、沿道の歴史的・伝統的建築物等の顕彰やデザイン・サイン・沿道の看板等の規制・誘導する。さらに残存する歴史的な建築物等を生かすとともに歴史的な小広場等を整備する。

図3-2 景観形成方針図（地域Ⅱ）



「地域Ⅱの景観」

<201>から<209>までの9つのまち場が多様な景観をあらわす。六甲山系の基盤の上に、近代期の瀟洒な住宅地景観から現代期の住宅地開発の景観まで表層の大きい地形の中で展開される。

「まち場 201, 202, 203 の景観」



阪急逆瀬川駅周辺
バスターミナル
<202> (54-31)



宝塚南口 近代期の居住地景観
<203> (39-36)



阪急逆瀬川駅周辺の小さなまち
<202> (54-37)



逆瀬川地区戦前から形成された居住・街並み景観
<202> (70-21)



伊子志 地区商業核逆瀬川
アピアが台地の上に見える
<201> (13-20)



伊子志 現代市街地建物の中に
伝統的建造物が見られる
<201> (42-2)

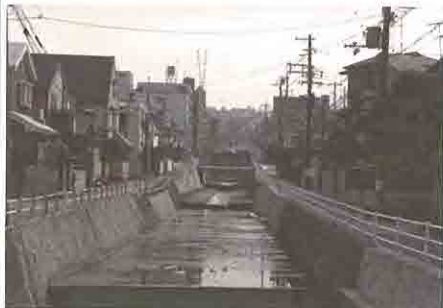


伊子志 市街地の変化が見られる
牧歌的な居住地景観
<201> (13-16)



伊子志 伊和志津神社
<201> (13-15)

「地域Ⅱの景観」つづき



支多々川下流 中州にも近代期の
居住地景観が見られる
<203> (39-24)



宝塚南口 近代期の居住地景観
<203> (32-39)



宝塚南口 近代期居住地景観
<203> (39-31)



宝塚南口 近代期の居住地景観
<203> (39-30)



宝塚南口 近代期の居住地景観
<203> (40-35)

「まち場 204, 205, 206
の景観」



野上 傾斜地の住居群景観
<204> (43-32)



野上 住宅地にメリハリをつける
まち場の幹線道路景観
<204> (45-3)



野上住居群に囲まれる
街区公園
<204> (43-31)



野上住居群<204> (25-9)



千種 まち場のコア景観
集会所・街区公園・緑地帯
<205> (69-32)

「地域Ⅱの景観」つづき



千種 街路の変化が
低層住宅群景観をまとめる
<205> (70-1)



千種 生け垣が多用される庭付
戸建て住宅地の景観
<205> (70-16)



逆瀬台・青葉台 傾斜地では
随所に隣接まち場の様子
<206> (71-27)



逆瀬台・青葉台
敷地単位・街区単位で傾斜がある
<206> (71-16)



逆瀬台・青葉台
敷地単位・街区単位で傾斜がある
<206> (71-15)



逆瀬台・青葉台
白瀬川は水流を立体的に見せる
<206> (71-6)

「まち場 207, 208, 209 の景観」



宝梅 支多々川中流に沿う景観
正面に青葉台と六甲山系
<207> (43-28)



宝梅 木造住宅と近代型の
敷地計画は居住地文化
<207> (43-18)



寿楽荘・宝塚南口への幹線道路
街路樹が美観をつくる
<207> (50-11)



寿楽荘 細街路景観
<207> (48-17)



寿楽荘 近代期の街並みの代表
<207> (32-19)



武庫山 傾斜地はまち場内外路網に
三叉路や五叉路を造る
<207> (58-13)

「地域IIの景観」つづき

武庫山街路の
先にはアイス
トップ
<207> (58-25)



武庫山丘陵地では住居群の中に
小河川が入る<207> (58-31)



温泉街の街並み 武庫川対岸が展望できる
建築空間デザイン技術が楽しさを
<209> (55-20)

月見山居住地の中
から周辺を展望し
ながら宝塚駅へ
<208> (56-14)



月見山 街区単位で街路は急勾配
<208> (57-2)



月見山 急傾斜の居住地では
街路は屈曲する<208> (56-35)



塩谷川 紅葉谷、甲子園大学、
山陽自然道へのみち
<208> (57-18)



観光プロムナード街並み
複合機能空間の景観へ
<209> (55-18)



温泉街の街並み
広場は街並みデザインを造る
<209> (55-24)



まち場の集会所住宅棟や
保養施設によるダイナミズム
<209> (72-13)

3. 地域Ⅲ

地域Ⅲは、2-4、2.(3)-2) “まち場” の特性に示した5つのまち場(301~305)が景観基本構造で結ばれ、構成している。



(1) 景観特性

地域Ⅲは、長尾山系の山なみを背景とした南斜面の山麓部にあり、地形的变化に富んでいる。山麓部では、中高層住宅や戸建住宅を中心としたニュータウンの造成やマンション建設による山麓景観の変化が見られる。

阪急宝塚駅周辺は、市街地再開発事業が行われ、宝塚歌劇やファミリーランド一帯は宝塚市の都心としてのシンボルゾーンとなっており、宝塚駅から荒神川にかけての花の道と、これに続く並木道が快適な歩行者空間となっている。

くわえて、シンボルゾーン内の最大のオープンスペースとなる武庫川両岸の河川敷緑地や堤防上の遊歩道等が一体となって、水と緑のネットワークを形成している。

長尾山山系山麓部に展開する御殿山一帯など山麓部には、閑静な良好な戸建住宅地が広がっており、宝塚を代表する閑静な住宅地となっている。

長尾山山系の沢筋や山麓部の縁には、古くから精神性の高い土地として神社・仏閣が立地し、清荒神、売布神社一帯は宝塚を代表する歴史的な文化環境地区となっている。

<主な景観資源>

	地域の景観資源	市全体の景観資源
山、緑	売布神社等の社そう林	山並み 宝塚自然休養林(北中山公園)
川・水面	一後川、荒神川、大堀川、 下池、弧池	武庫川、菰池
道路・鉄道	宝塚長尾線、ハイキングルート	中国自動車道、国道176号、 宝塚平井線、 阪急宝塚線、JR宝塚線、 有馬街道・巡礼街道
拠点	清荒神駅周辺地区、清荒神参道 売布神社駅周辺地区 小学校(売布、宝塚、すみれが丘) 中学校(御殿山)	シンボルゾーン、花の道(大劇場) 売布神社駅、宝塚駅周辺地区
歴史的な文化施設等特徴のある建物公共施設等	中央図書館、ベガホール、勤労福祉会館、 黙想の家、冬華庵、 中山寺及び奥の院、清荒神清澄寺等の 神社・仏閣等の歴史的施設	ファミリーランド、 手塚治虫記念館 宝塚大劇場、ソリオホール

(2) 基本目標

- ・ 武庫川空間と融合した宝塚の顔にふさわしく、洗練された都会感覚のシンボル景観を対岸と一体的に造形する。
- ・ 長尾山、大峰山等の背景と、それぞれの丘陵台地や山腹にある“まち場”の特性を生かし、独自性を高める地域を形成する。
- ・ “まち場”を連結する都市基幹・幹線道路の沿道景観を整備する。

(3) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

①水と緑のネットワーク景観づくり

②都市幹線・都市内幹線道路などの沿道景観づくり

- ・ 観光プロムナード、逆瀬川米谷線、武庫川左岸堤防道路のプロムナード景観の保全と強化整備
- ・ 国道176号、宝塚平井線(国道176号)、明石神戸宝塚線等の沿道景観
- ・ 地域内幹線道路・補助幹線道路等の歩行者ルート景観に配慮した居住地景観の育成整備

売布・北中山公園・清荒神ルート

宝塚駅・すみれが丘・北中山公園・近畿自然道ルート等

③宝塚駅周辺地区・ファミリーランド等のシンボルゾーン、清荒神駅周辺、清荒神参道、

- ・ 売布神社駅前地区等の賑わいと魅力ある都市景観づくり

④シビックゾーンの整備プロジェクトと関係する“まち場”との協調

⑤地域の歴史のサインとなる場の景観づくり

⑥各まち場での特性を保全・育成した地域づくり

(4) 主な景観づくりの方針

○歴史・文化と融合した地域の景観づくり（売布神社・清荒神駅、旧街道）

- ・ 巡礼街道は、歴史的遺産や丘陵緑地、菰池など地域資源を結ぶ生活道路でもあり、路面のデザインやサイン、菰池の公園化、建築物等の景観誘導や緑化推進により、歴史性を感じる街道景観を創出する。
- ・ 川面神社、皇太神社など神社・仏閣等の歴史的・伝統的建築物等を保全し、社そう林等の保全・活用を図り、憩いの空間の充実を図る。
- ・ 冬華庵を地域の歴史・文化資源として位置づけ、保全に努める。
- ・ 中山荘園八角古墳、旧清遺跡を保存するとともに、周辺を憩いの空間として整備を進める。
- ・ 有馬街道は、歴史的街並みを感じさせる景観形成と演出を行う。

○水と緑のネットワーク

- ・ 山麓の自然緑地と街道および河川等を結び、水と緑のネットワークの形成を図る。清荒神清澄寺周辺では、参道としての街並み景観の形成・活性化を図るとともに、道路の美装化、看板・サイン類の整備等を行い、快適な散策道として充実する。くわえて、山間部の自然

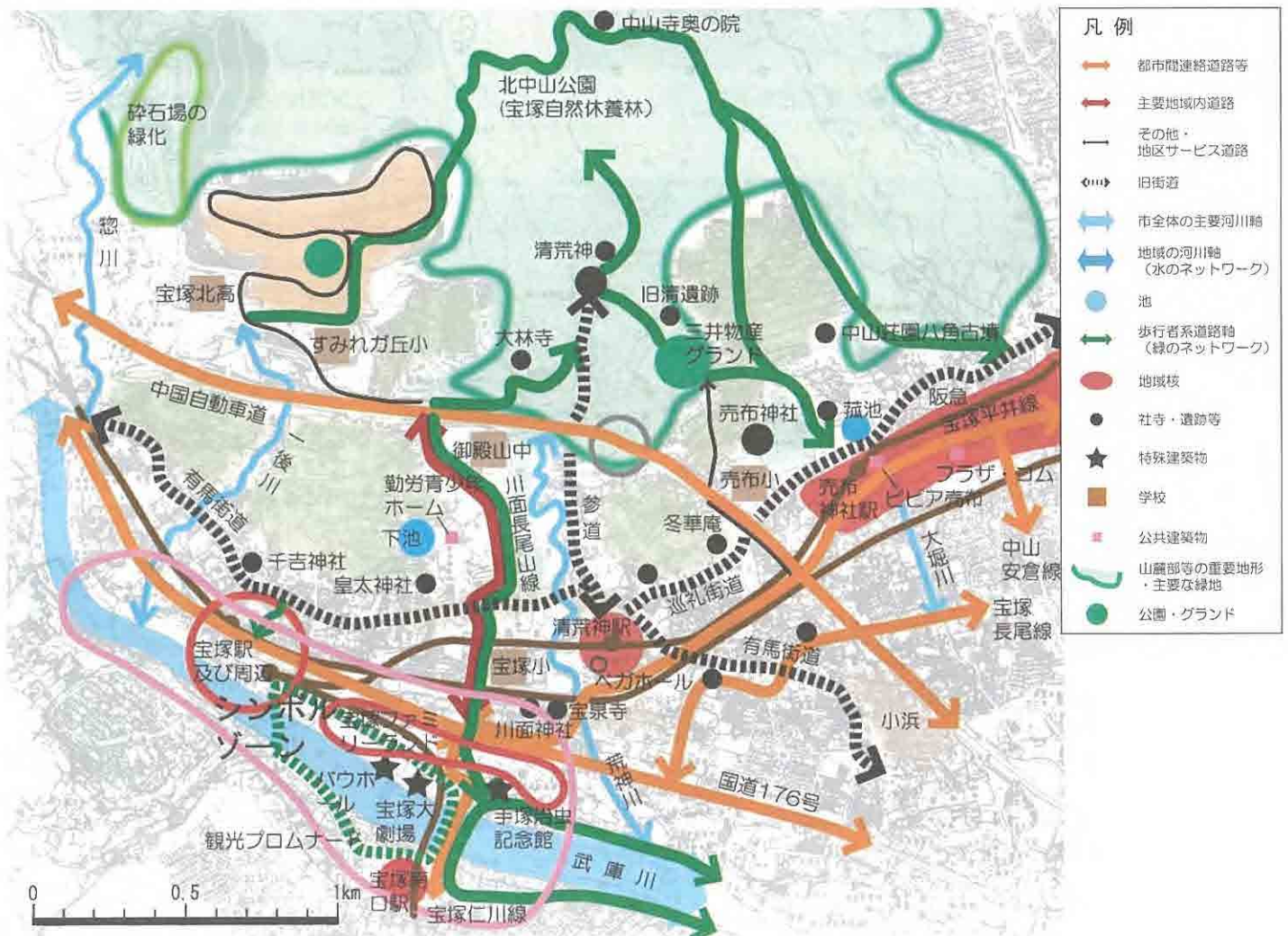
歩道に通じる自然歩道を主体にしたアメニティー軸として整備する。

- ・ 荒神川や一後川沿川での遊歩道整備や道路等の交点や武庫川合流付近を中心にオープンスペースの確保と防災機能の整備もあわせた水辺の景観整備を行う。
- ・ 風致公園の北中山公園は、風致景観の保全とともに緑との触れ合い機能を充実させ、広域的緑のネットワークの拠点ゾーンとして保全・整備する。あわせて市街地等への眺望点として保全・育成する。

○幹線道路等沿道景観づくり

- ・ 川面長尾山線は、地域の市民生活の中心的道路であり、国道176号などとともに、沿道の土地利用と建築物等の調整を行い、道路の特性に合わせた沿道景観の形成を図る。くわえて、歩道の美装化、街路樹の育成、沿道の建築物・広告物等のデザインの統一・調和を図り、緑化を誘導し、周辺地域と一体となった安全で快適な道路空間を創る。
- ・ 花の道、宝塚駅前線は幹線道路から駅前へ連絡する道路として、緑と憩いのスポット等を整備し、沿道景観を整えるなかで、わかりやすく、楽しい、快適な歩車共存空間を創る。
- ・ 花の道等、商業・娯楽空間と一体となった道路については、観光プロムナードとして緑と花が豊かな、夢を感じる快適な道路空間の創出に努める。

図3-3 景観形成方針図（地域Ⅲ）



「地域Ⅲの景観」

<301>から<305>の5つのまち場が構成する。
シンボルゾーン、歴史的環境の清荒神等、宝塚の
代表的な場が形成されている。



御殿山 早くから近代期居住地景観
伝統的な生け垣 <302> (15-27)



シンボルゾーン花のみの住宅
<301> (68-8)



シンボルゾーンの住宅棟
<301> (64-4)



御殿山 下の池まわりの居住地
<302> (15-7)



御殿山早くからの近代期居住地
堀等による街並み<302> (16-10)



御殿山早くからの近代期居住地
生け垣による街並み
<302> (15-29)



川面 有馬街道の街並み
阪神・淡路大震災後変化する
<302> (14-38)



清荒神 有馬街道を通過って
清荒神参道・川面へ
<303> (14-8)



清荒神 清荒神参道門前町
<303> (73-30)

「地域Ⅲの景観」つづき

清荒神 八坂神社
 <303> (37-29)



清荒神 米谷が利用する
 溜池のまわり<303> (37-17)



阪急売布神社 商業核（ピピアめふ）
 と国道176号線（宝塚平井線）
 <304> (21-24)

売布 売布神社
 ここを中心に山林が残る
 <304> (74-13)



清荒神 近代的な住宅地景観
 <303> (74-10)



清荒神 伝統的な和風邸宅が
 いくつか見られる
 <303> (37-34)



売布ガ丘 傾斜地住宅地
 <304> (38-28)



売布 現代型の
 集合住宅街区が入る
 <304> (74-10)



米谷 有馬街道へ伝統的民家が
 使われている<304> (37-2)



米谷 有馬街道へ生け垣などが
 継承される<304> (36-26)

4. 地域Ⅳ

地域Ⅳは、2-4、2.(3)-2) “まち場” の特性に示した5つの“まち場(401~405)が景観基本構造で結ばれ、構成している。



(1) 景観特性

地域Ⅳは武庫が流域の段丘台地上にあり、段差となだらかな傾斜のある平坦地である。地域南西辺には武庫川があり、地域内には大堀川と天王寺川が南方に流れ、武庫川に流入している。

南東部は農地と住宅が混合し、東部では農地が残存して生産緑地に指定されている。南部は農地部分に土地区画整理事業がなされ、集落地に中高層集合住宅団地、小規模住宅地開発が混在する市街地化が進行している。尼崎宝塚線沿道は、住宅・商業施設・工場が混在した街並みになっている。北部にある総合福祉センターは、シビックゾーン南部の拠点施設である。

安倉上池、安倉下池は、この地域の景観には欠かせない資源である。

この地域の特徴としては、小丘陵上にある小浜宿の街並みであり、「旧小浜宿景観形成地域」に指定され、街並みと町家の保全整備が続けられている。小浜を拠点とする、伊丹街道・有馬街道の歴史的街道には伝統的民家が残されている。さらに、中国自動車道の宝塚インターチェンジ、国道176号線と尼崎宝塚線と逆瀬川米谷線の交差点があり、市域の出入り口の顔となる交通の結節点となっているとともに宝塚市立病院・健康増進センター、宝塚郵便局などの都市施設が立地し拠点性をもっている。

<主な景観資源>

	地域の景観資源	市全体の景観資源
山、緑	農地 社寺(住吉神社等)の社そう林	安倉下池公園、安倉上池公園
川・水面	大堀川、天王寺川、荒神川 中ノ池、西ノ池	武庫川、安倉上池、安倉下池 中の池、西の池
道路	安倉線 安倉鴻池線	国道176号、尼崎宝塚線、 逆瀬川米谷線、 宝塚長尾線、宝塚池田線 中山安倉線、 中国自動車道、 有馬街道、伊丹街道、 阪急宝塚線、JR宝塚線
拠点	小学校(安倉、安倉北、小浜、美座、 末広) 中学校(安倉、宝塚)	シビックゾーン ・スポーツセンター(総合体育館・市民プ ール・武道館・テニスコートなど) ・教育総合センター・総合福祉センター ・クリーンセンター・宝塚郵便局 ・その他の官公庁施設・CATV局など 旧小浜宿景観形成地域(街並み、毫撰寺、 皇太神社、法仙寺、本妙寺、伝統的町家、 小浜資料館、小浜工房館など)
歴史的文化施設等 特徴のある建物、 公共施設等	神社・仏閣等の歴史的施設 (住吉神社、大連寺など) 公共及び民間施設(宝塚チボリ、大 規模あるいは沿道商業施設など)	シビックゾーン内の大規模都市施設など 市立病院・健康増進センター・看護専門 学校など

(2) 基本目標

- ・長尾山および中山連山の山麓から南部の段丘台地上にある歴史的環境を生かした個性豊かな南北ゾーンの都市景観を保全・整備する。
- ・武庫川をはさみ宝塚新大橋で結ばれるシビックゾーンの整備を充実強化し、武庫川のアメニティを生かしながら、宝塚市の格調さを表象する場とする。大堀川、天王寺川、これとつながる溜池の水辺空間の景観を学校施設・公園緑地などと一体的に整える。
- ・176号線、尼崎宝塚線の幹線道路、中国縦貫道インターチェンジなどの交通施設が地域内にあり、ふさわしい周辺景観を整える。また、幹線道路の中山安倉線、176号線（宝塚平井線）、宝塚長尾線の沿道の街並み景観を形成する。

(3) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

①水と緑のネットワーク景観づくり

- ・安倉小学校、安倉中学校、安倉下池、下の池公園等との一体化による水と緑の拠点整備、生産緑地の活用
- ・大堀川と県営安倉団地街区公園、チボリ駐車場等の一体化による水と緑の拠点整備

②都市幹線・都市内幹線道路などの沿道景観づくり

- ・観光プロムナード、武庫川左岸堤防道路のプロムナード景観の保全と強化整備
- ・国道176号、尼崎宝塚線、中山安倉線、宝塚長尾線、宝塚池田線、安倉線の沿道景観整備、生産緑地による沿道の緑化
- ・地域内幹線道路・補助幹線道路等の歩行者ルート景観に配慮した居住地景観の整備――有馬街道・伊丹街道ルート、中小河川沿いルート等

③シビックゾーン形成での整備プロジェクトや関係するまち場との協調

④地域の歴史のサインとなる場の景観づくり

⑤各まち場の特性を保全・育成した地域づくり

(4) 主要な景観づくりの方針

○幹線道路等沿道の景観づくり

- ・南北方向の尼崎宝塚線、中山安倉線、東西方向の宝塚長尾線、宝塚池田線の幹線道路は、沿道の土地利用と建築物等による景観の調整を行い、道路景観の連続的な性格および区間ごとの特徴を演出し、沿道の景観形成を進める。くわえて歩道の設置、街路樹の育成、看板等の広告物、街灯等を通り区間ごとに景観面からデザインする。また道路景観の中での生産緑地を、沿道景観として利用面からも展望面からも活用する。
- ・特に、宝塚長尾線は市街地のほぼ中央を東西に連結する幹線であり、河川や山並み、生産緑地が見える快適さがあり、道路から見える景観について新たな展開を検討する。
- ・国道176号線は、沿道の建築物等による沿道景観の整備、街路樹などの整備、広告物の規制・誘導などを行う。これらにより沿道施設の魅力度を高めることができる。
- ・市道武庫川通線、川面稲野線などの道路は、河川沿いの緑・水・憩いスポットなどの整備により快適な歩車共存空間をつくる。
- ・インターチェンジ・小浜交差点周辺は交通拠点であり、花・緑や歴史性が体験できる修景を進め、庭園都市宝塚のシテイゲートにふさわしい都市景観をつくる。

○小浜地区・歴史街道を中心とした歴史を活かした街並みづくり

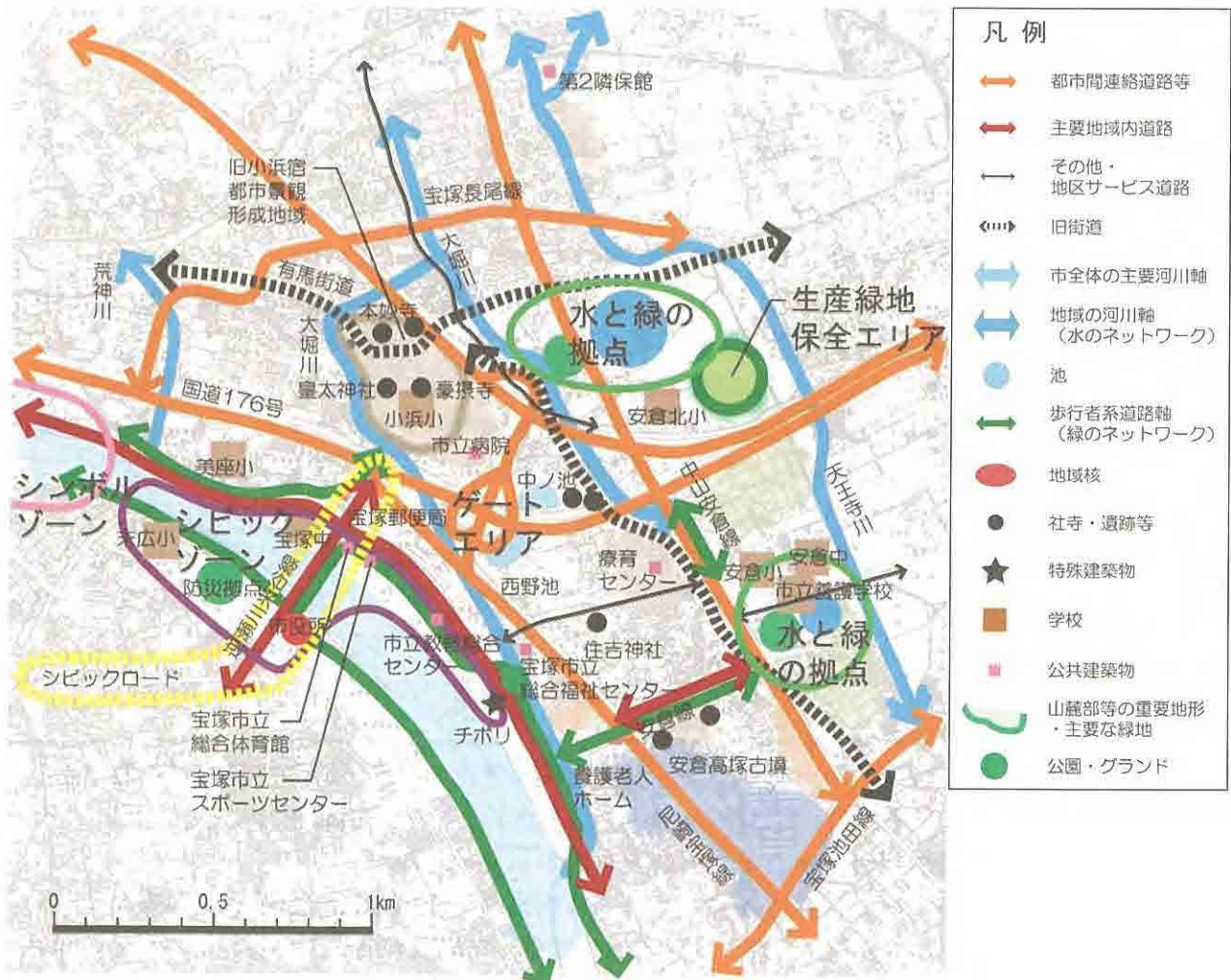
- ・伝統的街並み保全の小浜宿を中心とし、有馬街道や西宮街道との歴史的街道のネットワーク化を図り、歴史的建造物、集落景観に配慮した景観整備を進める。くわえて、看板・

- サイン等の広告物の規制を行うとともに、歴史的な小広場等を適切に配置し整備する。
- 小浜のまちの入口である町門付近では、小浜の玄関としての環境・景観づくりを行う。
- 毫撰寺、皇太神社、住吉神社、安倉高塚古墳など歴史的・伝統的遺産等を保全するとともに、社そう林等の保全・活用を図り、憩いの空間の充実を図る。
- 有馬街道は、歴史を感じる道路として、沿道の歴史的・伝統的建築物等の顕彰やデザイン・サイン・沿道の看板等の規制・誘導するとともに残っている歴史的・伝統的建築物等を生かして、歴史的な小広場等を整備する。

○水と緑のネットワーク

- 河川・溜池および街道、街路樹を持つ歩道等と連携し、水と緑のネットワーク化を図る。
- ため池・河川等については親水性を有する護岸整備を行う。くわえて、安倉上池、下池は、周辺の農地や学校と一体となった水と緑の拠点として、潤いある景観づくりを進める。
- 大堀川・天王寺川は、改修にあわせて親水性を有する護岸整備を進める。小浜地区の大堀川は、川岸を保全し、周辺社寺等につながる快適な歩行者動線の確保に努める。
- 武庫川および沿川では、市民の憩いの場の整備や桜並木を保全・育成し、遊歩道の整備を行い、荒神川・小浜地区・武庫川を結ぶネットワーク化を図るとともに、川沿いの建築物等のデザイン誘導に努める。
- 各河川・溜池等については水質浄化、地域住民の参加による清掃美化に努め、快適で魅力的な水辺空間を維持する。
- 安倉北地区では、生産緑地の主旨を活かし、緑豊かな農業空間を保全する。

図3-4 景観形成方針図(地域Ⅳ)



「地域Ⅳの景観」

<401>から<405>の5つのまち場で構成される。景観形成地区の小浜宿、安倉上池・安倉下池、集落地と現代期開発の住宅地など固有の景観をもつ。沿道景観にも個性ある景観整備が求められる。



小浜 有馬街道からの
北の入り口<402>(37-14)



小浜 伝統的町家の街並みが保全された
メインストリート<402>(7-7)



泉町集落街道を南下する街並み
<402>(86-8)



泉町 宝塚長尾線交差点
<404>(42-28)



安倉北 安倉上池
<405>(18-15)



安倉北 安倉上池につづく
<405>(52-34)



安倉北 集落街道
伝統的民家が点在する
<405>(41-1)



安倉北集落街道 住吉神社
<405>(41-8)

「地域Ⅳの景観」つづき



安倉中 伝統的民家、マンション、
建て売り住宅が混在
<405> (53-1)



安倉中 安倉下池まわり
<405> (84-1)



安倉中 安倉下池まわり
下の池公園から安倉小学校
<405> (84-6)



安倉中 安倉下池まわり
下の池公園歩行者専用緑道
<405> (17-35)



安倉中 安倉中学校まわりの
市民農園<405> (84-13)



安倉南 中山安倉線の
銀杏並木が映える
<405> (17-15)



安倉南 中山安倉線上の
近隣商業コープ神戸
<405> (17-20)



安倉南の幹線道路
<405> (41-16)



安倉南 区画整理内の
住宅地街区公園
<405> (41-13)



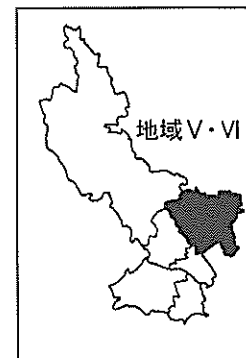
安倉南 集落内の街並み
<405> (41-23)



安倉南区画整理事業内の住宅地
<405> (41-15)

5. 地域V・VI

地域Vは、2-4、2.(3)-2) “まち場”の特性に示した7つのまち場(501~507)が、地域VIは、3つのまち場(601~603)が景観基本構造で結ばれ、構成している。地域Vと地域VIはそれぞれは変遷し、明白な特質を持つ状態になっている。景観形成において、大きな地形の連坦や歴史的沿革から相互に関係させて景観整備を行うことが肝要なひとつである。地域Vと地域VIの「連環性」に留意するために、「5 地域V・VI」としてとらえる。



(1) 景観特性

地域V・VIは、(i) 北は長尾山系東部と中山系(地域VI)、(ii) 中間はその山麓部(地域V)、(iii) 国道176号線(宝塚平井線)より南部は比較的南方に緩傾斜となる扇状地ないしは台地(伊丹台地)(地域V)より構成される。

地域の西端は足洗川に発し、天王寺川となり南方に流れ、中央部では天神川となり天王寺川に合流し、武庫川に流入する。中央部から東方に向け雲雀丘の北部の渓谷から発する最明寺川が流れ猪名川に流入する。このように、地域V・VIの都市景観は、東西方向の同じ標高を持つゾーンと南北方向の傾斜に沿って流れる河川水系の景観基盤をもつ。

「地域V」は、7つの“まち場”により構成されるが、<501中山寺・中山荘園>、<502中筋・中筋山手>、<503山本・山本台>、<504平井・平井山荘>、の4つの“まち場”は、山麓部の斜面地の街並みである。この“まち場”は、巡礼街道、阪急宝塚線、国道176号線(宝塚平井線)で結ばれ、それぞれの沿道は市街地の中に伝統的な庭園木栽培地、園芸・造園業などが立地している。<わえて神社・仏閣等の宗教の場が存在するなど独自の都市景観を形成している。しかし、近年はマンション立地や小規模住宅地開発が進みつつある。まだまだ多くの溜池が残されており、市街地環境の維持、景観上の潤いの形成等に大きな役割を果たしている。

<505 山本丸橋>、<506 口谷西・口谷東・南ひばりガ丘>、<507 山本野里>は、段丘地の上のなだらかな南傾斜面にあり、生産緑地のまとまりが多く見られ、細水路網の清流が市街地や生産緑地の間を流れている。生産緑地や集落地の周辺等では、住宅団地、マンションあるいは商業施設等が立地しだしている。

「地域VI」は、長尾山系、中山系の尾根筋あるいは山腹に近代・現代期に住宅地開発された地域である。<601 中山台・中山桜台・中山五月台>、<602 山手台西・山手台東>、<603 雲雀丘・雲雀丘山手・花屋敷荘園・長尾台・花屋敷つつじガ丘・花屋敷松ガ丘・ふじガ丘>はそれぞれに特性をもつ“まち場”である。

<603>のうち、雲雀丘・雲雀丘山手は大正期などに住宅地として開かれ、我が国の郊外住宅地における丘陵緑地の中の居住地文化をもっともよく表象している。長尾台・花屋敷荘園などは、現代期における住宅地開発が継続している地域である。一方、宝塚造形芸術大学は山腹に建てられ、遠くからもランドマークになっている。

<601 中山台・中山桜台・中山五月台>は、1960年代後半から、勅使川を西に、天神川を東にもつ尾根筋とその間の二つの沢筋に大規模な住宅地としてが開発されたものであり、現代期の住宅地景観の代表のひとつである。

<602 山手台西・山手台東>は、より近年の住宅地開発が進展中であり、住宅地の設計には歩車分離などの新たな試みの景観が見られる。山手台の中心を通る道路は、長尾山トンネルを通過して西谷地域へ行く幹線である。ここでは、市域南部が見通せる眺望や武庫川を越えて六甲山系の市街地や沢筋の緑地帯や谷向こうの住宅群が見られ、変化に富んだ景観が体験できる。

<主な景観資源>

	地域の景観資源	市全体の景観資源
山、緑	農地・園芸畑(生産緑地) 八坂神社、松尾神社、妙玄寺、天満神社等の社そう林	生産緑地(植木園芸地) 北部山並み
川・水面	新池、沢池、皿池・八幡池、淵池、橋谷池、足洗川、勅使川、天神川、最明寺川、中川、八幡池等	辻ヶ池
道路	山本南通線、鴻池野里線 遊歩道(ハイキング)ルート、 中山寺奥の院への参道 等)	国道176号、宝塚長尾線、 宝塚平井線、山本大野線、 中筋伊丹線、 阪急宝塚線、JR宝塚線、 巡礼街道、有馬街道
拠点	中山寺駅周辺地区(将来の整備予定)、 中山駅、山本駅、雲雀丘花屋敷駅、 小学校(丸橋、長尾南、長尾、長尾台、山手台、 中山桜台、中山五月台) 中学校(長尾、南ひばりが丘、山手台、中山五月台)	
歴史的文化的施設等特徴のある建物 公共施設等	宝塚造形芸術大学、雲雀丘学園、 山麓成熟住宅地、最明寺大橋、 コミュニティセンター 中山寺・妙玄寺などの神社・仏閣等の歴史的施設	宝塚園芸流通センター 宝塚園芸振興センター (あいあいパーク)、 東公民館・東消防署など

(2) 基本目標

地域Vと地域VIに分けて基本目標を設定する。

・地域V(山麓部・台地部)

- ・歴史遺産空間、河川・溜め池空間、植木園芸産業空間、伝統的民家の街並みから現代期の街並みが織りなす都市の庭園市街地景観を創造する。
- ・歴史街道の景観を設定し整備を継続する。特に、巡礼街道、丹波街道の景観を保全整備する。
- ・市域中間地域の山並みを背景とし、一方市域南部に眺望がひらけている拠点エリアを街の焦点となるように充実・強化する。

・地域VI(山間部)

- ・中山連山の山麓・山腹部に立地する近現代期の斜面地住宅地は、時代の文化、住宅地づくりの技術を有し、独自の居住景観を展開している。これまで21世紀型の景観要素が蓄積された居住景観を育成するとともに、自然環境景観を保全活用する。
- ・中山連山の東部小丘陵にひらかれた雲雀丘、花屋敷を中心とする地区は、未来に生きる近代期の郊外居住文化の景観として保全・整備する。中山台・中山桜台・中山五月台は20世紀後半から未来に向かう山腹住宅地として成熟していく。山手台・中山台住宅地並びに長尾台・花屋敷つつじが丘などの“まち場”は21世紀の郊外山腹住宅地景観を保つようにする。
- ・天神川、勅使川、足洗川、最明寺川の上流は水質保全とともに斜面緑地などの沢筋景観を保全する。

(3) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

- ①水と緑のネットワーク景観づくり
 - ・河川・溜池等の水質の保全
 - ・河川（小河川を含む）・溜池・生産緑地（植木園芸産業空間）の一体化したネットワークの形成と河川沿い緑道・プロムナードの整備
- ②都市幹線・都市内幹線道路などの沿道景観づくり
 - ・宝塚平井線(国道176号)、山本大野線、山本南通線、中筋伊丹線、鴻ノ池野里線等の沿道の土地利用誘導と景観整備
 - ・地域内幹線道路・補助幹線道路などの歩行者ルート景観に配慮した居住地景観の育成整備——山本・最明寺・切畑ルート、中山奥の院参道ルート等
- ③中山駅周辺地区、山本駅周辺地区、JR中山寺駅周辺地区(整備誘導地区)等の賑わいと魅力ある都市景観づくり
- ④地域の歴史のサインとなる場の景観づくり
- ⑤各まち場での特性を保全・育成した地域づくり
- ⑥まち場ごとに面的・総合的な検討を加え、具体的な景観（像）形成計画（プラン）を描き、手順・整備経過の計画（プログラム）を持つことが肝要である。

(4) 主要な景観形成の方針

○幹線道路等沿道の景観づくり

- ・国道176号、宝塚長尾線、中筋伊丹線、宝塚平井線、山本大野線等の地域幹線道路は、沿道の土地利用と建築物等の調整を行い、道路の特性に合わせた景観形成を図る。くわえて、歩道の設置、街路樹の育成、看板・サイン等広告物のデザインの規制・誘導を行い、周辺地域と一体となった、植木園の景観を取り入れたうるおいのある道路空間を創る。
- ・宝塚長尾線・宝塚平井線は、沿線の植木業者の庭先活用（ショーウィンドウ化）を進め、地域内の花と緑の連続性と回遊路を整備し景観的な魅力の向上を図る。
- ・中筋山本線、中山寺駅前線、鴻ノ池野里線等の道路は、緑と憩いのスポット等を整備し、快適な歩車共存空間をつくる。特に、中山五月台と山手台を周遊する住宅地内道路には、街路樹や花壇の育成に取り組む。
- ・阪急線、JR線沿線の一定範囲は、宝塚を印象付ける魅力のある車窓景観づくりに留意する。

○地域核—鉄道駅周辺の個性ある景観づくり

- ・中山駅周辺は、中山寺への玄関として、駅周辺における門前街・観光商業地として、趣と賑わいのある景観づくりを進める。
- ・山本駅周辺は、山麓の閑静な住宅地への玄関、日本有数の植木の産地の玄関、北部地域（西谷地域、五月台等）への連絡口として、また地域拠点として魅力ある商業地景観をつくっていく。
- ・雲雀丘花屋敷駅周辺は、地域の利便性向上と商業空間の魅力化と緑豊かな景観をつくる。
- ・JR中山寺駅周辺は、土地区画整理事業により駅前広場を中心に宝塚の新たな市街地の

拠点地区として、新たな都市機能の誘導とともに、緑豊かな21世紀を先導する街の景観づくりを進める。

- ・ あいあいパーク（宝塚園芸振興センター）と周辺地域は、ガーデニングの拠点として、地区の溜池や小河川とともに産業と交流機能が複合する緑と潤いなどが展開される空間、散策と人の滞在が自然に生じる空間の創出・育成に努める。

○緑豊かな閑静な住宅地景観の継承と創造

- ・ 山間部尾根筋に立地する雲雀丘・雲雀丘山手・花屋敷荘園、中山桜台・中山五月台などの住宅地は、山腹の斜面緑地および住宅地斜面の緑地を保全する。くわえて、河川・水路等の保全整備を継続し、その居住環境を保全しながら景観を保全・育成する。

○中筋地区の時代に適応し、伝統を保持し、独自の魅力ある市街地景観づくり

- ・ JR中山寺駅の南北一帯は、土地区画整理事業により伝統的資源を保ちつつ新たな市街地展開が進みつつある。本市の新たな市街地拠点地区として、新たな都市機能の適切な誘導を図るときに、適切な地域特性の保持、小広場の設置、緑のネットワーク形成・連続性の確保などに留意し、21世紀の庭園都市宝塚を先導する街並み景観づくりを進める。

○山本・平井地区の植木・花き産業を生かした緑豊かな景観の保全と育成

- ・ 植木・花き産業を生かした緑豊かな景観の保全整備と育成に努め、生産緑地地区の保全と活用に配慮し、他の都市にない独自性のある市街地景観の形成を展開する。

○山本丸橋・山本野里・口谷等の地域での、生産緑地等を生かした景観づくり

- ・ 植木・花き産業と農地等の生産緑地、集落としての伝統を保持する市街地、住宅団地、中高層集合住宅、小規模開発地の低層住宅地等の構成による市街地において、新たな特徴ある市街地景観を創出する。

国道176号線、宝塚長尾線の道路景観の整備は地域環境にとっての役割が大きい。

○身近な歴史遺産を生かした景観づくり

- ・ 中山寺、最明寺、八幡神社、八坂神社、松尾神社、天満神社、春日神社、妙玄寺、正念寺およびその他の歴史的文化財は、巡礼街道や集落道のそれぞれの要所に立地しており、貴重な社そう林を保持しており、清溢な環境を保持している。保全整備はよく行われているが、景観面からの保全整備にも配慮し、憩いの空間としての充実を図る。
- ・ 巡礼街道等の歴史的街道の沿道は近代化の中で変化が生じつつあるが、その敷地や空間利用と街並みに配慮した建築物等の調整を行うとともに看板・サイン等の規制・誘導を行い、さらに、歴史的な小広場の整備などを検討し、歴史性を感じさせる景観づくりを進める。今後具体案の検討を進める必要がある。

「地域Ⅵの景観」つづき

雲雀丘
敷地内の丘陵斜面地の
緑を保全した住宅
群の景観
<603>(77-36)



雲雀丘 丘陵地に立地する緑に囲まれた
近代期の戸建て住宅地の景観
<603>(79-26)



雲雀丘 斜面に直交する道路に沿っ
た近代期の住宅群の景観
<603>(79-16)



雲雀丘 近代期住宅
<603>(79-2)



雲雀丘 近代期住宅が等高線沿い
に自然な傾斜を生かした敷地計画
の中に立つ<603>(79-3)



雲雀丘山手 雲雀丘山手の
集約された公園
<603>(78-10)



雲雀丘山手 手作りの住宅
街区内のアプローチ路
<603>(78-27)



雲雀丘山手 斜面等高線に沿う
住宅地道路から展望の景観
<603>(78-14)



雲雀丘山手 丘陵地形を残した
住居群景観<603>(78-17)

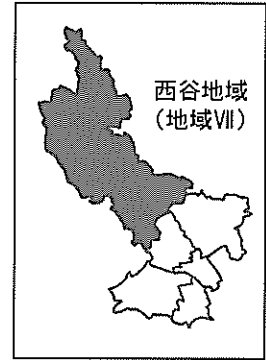


雲雀丘山手 伝統的木造の
近代期住宅の街並み
<603>(78-35)

6. 西谷地域（地域Ⅶ）

西谷地域（地域Ⅶは）、山々が連なったまとまりや、小・中学校が一つで、社会的に一つの地域としてまとまっている。

他方、山々、地形、水系、集落群のまとまりから次項に示す7つの景観単位によって構成されている。



（1）西谷地域の概要

西谷地域は、地形的に中間地域を挟んで南部市街地から独立し、豊かな山林に覆われた山並みに取り囲まれた山間田園地帯として推移してきた。

西谷地域は、古代から中世にかけての変遷を経て、平安時代には多田荘の一部を形成し、猪名川等の東西方向の地域の結びつきを古くから持っていた。明治22年に合併して西谷村になるまでには、10ヶ村が成り立つまでになっていた。10ヶ村が合併して西谷村となり、その後、西谷村は昭和30年に宝塚市と合併して今日に至っている。

西谷地域は、鉄軌道の福知山線は（現在のJR片福線）明治期に開通し、その後道路の鳥脇宝塚停車場線が開通した。そして長尾山トンネルが平成13年に開通したことによって、南部市街地との一体化はより一層強化された。

西谷地域は、地形的には南部市街地と大峰山・長尾山（標高302m）・中山連山の中間地域を挟み、北部地域として独立したまとまりをもっている。

東西約5km、南北13kmの広がりの中に、古代以来の集落が分布している。

これらの集落のまとまりを“まち場”としてみると以下の通りとなる。

まち場の範囲	集落地名
<701 武田尾温泉リゾート地>	（武田尾）
<702 切畑集落域>	（切畑）
<703 玉瀬集落域>	（玉瀬）
<704 境野集落域>	（境野）
<705 大原野集落群域>	（大原野中部、大原野西部、大原野東部）
<706 佐曾利集落群域>	（下佐曾利、上佐曾利、長谷、香合新田）
<707 波豆集落地域>	（波豆）

<701 武田尾温泉リゾート地>以外の集落番号<702>から<707>の集落は、営農を基盤として、自然環境と共生し地域文化を継承してきた。

北部地域の集落は山々に挟まれており、山々の地域分布は、図3-6のとおりで西谷地域の現況の特性を示した分布となっている。

それぞれの集落の周囲に営農地が段状につらなり、水系に沿った水田・畑地が山々の麓まで開拓されている。農用地をシステム化している地域内水系は、川下川・境野川水系、波豆川とこれに合流する佐曾利川・大原野川・長谷川の水系が幹線である。

馳渡山の麓の武庫川渓谷にあるJR宝塚線武田尾駅に武田尾温泉があり、西谷地域への入り口となっており、県道笹尾塩瀬線から塩瀬宝塚線に合流して西谷地域に入る。

南部地域市街地からの道路ルートは、国道176号線の武庫川生瀬橋から塩瀬宝塚線の

ルートと、長尾山トンネルをぬけて切畑多田院線から塩瀬宝塚線へ合流するルートによる。集落は、これら幹線道路ルートに沿って立地している。切畑から塩瀬宝塚線、武田尾から笹尾塩瀬線の道路ルートの2線によって、西谷地域の山間の田園景観を体験することができる。

この集落を結ぶルートのなかで、西谷地域の中心地となっている大原野には社会活動の中心（西谷支所、JA、郵便局、派出所、西谷小学校、西谷中学校など）が形成されている。また、自然休養村センターが支所に併設され、近畿自然道の拠点となっている。さらに、周辺の山麓には酪農センター・植物センター（境野）、少年自然の家（波豆川右岸）、佐曾利のダリヤ園、長谷の牡丹園などが設けられ、自然景観との共生の場となっている。

（2）景観特性

1）地形・土地利用

- ・周囲を標高約450m前後の緑豊かな山々に囲まれた細長い谷筋を中心とする盆地に、幹線道路が通り、沿道または道路に隣接して集落と農地が広がっている。広がりある農地に張り出す小さな尾根や小丘状地形が、景観を特徴づけ、奥行き感と変化を創出しているとともに、それらの麓にいくつかの集落の単位を形成している。
- ・谷筋には河川が流れ、河川の氾濫敷き等では湿地を創り、ビオトープの場となっている。さらに、河川沿いに広がる農地、伝統的家屋さらに集落周囲の竹林や屋敷林・溜池・山並みとが連続する昔ながらの山間・農村風景が形成されている。
- ・田園地帯を囲む山麓や山間部には、豊かな緑や溪谷に抱かれた自然休養村センター、植物センター、少年自然の家、観光農園、酪農センター、牡丹園、武田尾温泉、桜の園や5ヶ所のゴルフ場があり、多くの人々が訪れるレクリエーション地域となっている。

2）河川・池等

- ・山並みに囲まれた東西方向の谷筋には長谷川・波豆川、南北に佐曾利川・大原野川が流れ、それらに沿って集落が形成されている。また小河川や水路が山麓の尾根や小丘状地形の間を巡っている。
- ・宝塚市及び神戸市の重要な水道水源流域となっている地域北西端に千刈水源地、そのやや南に川下川貯水池がある。千刈水源地には、佐曾利川・波豆川・長谷川・大原野川、川下川貯水池には境野川、そばが谷川（玉瀬川）が注ぎ込み、さらに武田尾付近では、坊川が武庫川に直接流入している。
- ・波豆川などでは河岸が植物で覆われ、サクラ並木も形成されているが、コンクリート護岸の部分も多い。河川の合流地点、氾濫敷きとして川幅の広いところでは、自然の湿地になり、水性植物・生態のビオトープの空間となっている。
- ・谷筋の奥には多くの溜池も見られ、また、数多くの小さな溜池が集落の背後に連続し、農林道・集落道をたどるとき、安らぎを感じる水辺の景観を呈している。水の流れを大切する中で、自然地形に調和した農地形状が保たれている点が大きな特徴である。

3) 道路、地域中心等

- ・南部市街地域からは、生瀬付近は塩瀬宝塚線を介して、山本付近は、山本大野線を通り、長尾山トンネルを通り、切畑多田院線を介し、また東部の猪名川町の川西篠山線を経由して西谷地域に至ることができる。
- ・長谷川や佐曾利川の流れる谷筋を、地区の幹線道路である県道川西三田線と県道下佐曾利笹尾線が東西・南北に走り、その交差付近からやや南の大原野川沿いの平地は、市役所支所・診療所・郵便局等の公共施設と小規模な店舗や農業施設・工場等が立地する地域の中心となっている。
- ・周辺地区とつながる主要な道路は、南の山並みを抜けて市域南部の市街地に至る県道切畑多田院線・県道塩瀬宝塚線や、市域西側境界付近の武田尾温泉から猪名川町方面に至る県道切畑猪名川線などがある。
- ・市境界付近にはJR宝塚線が通り、武田尾駅があるが、ほとんどがトンネルとなっているため、武庫川に架かる朱色の鉄橋以外は、景観的にはあまり認識されない。
- ・武田尾温泉は山間の昔ながらの閑静な温泉地として静かな保養地景観をつくっている。
- ・南側尾根を越えた山間部（古里山と大峰山間）を切畑猪名川線に沿って、東西に横切る第2名神自動車道の建設が予定されている。

4) 集落景観

- ・川筋に沿って上佐曾利・下佐曾利・長谷・切畑・大原野など、約10ヶ所の集落が形成されている。集落地内道路の幅員は狭いが、民家の敷地は広く、そのほとんどが農家住宅で、伝統的様式の母屋と蔵を備えた重厚なたたずまいの農家建築であり、その主奥屋は各時代の特徴を見せるが、伝統的民家であり、かや葺き屋根のものも残されている。
- ・建築物等々の土台や塀には、石垣や白壁、生け垣、格子といった自然の材料と建築工法が用いられ、敷地内の緑が豊富であり、背後の樹林と一体となった伝統的で美しい山間田園集落と山里景観を保っている。
- ・また、各集落の歴史と風情を感じさせる神社や社寺林も景観のポイントやランドマークとして機能している。
- ・一部区域においては、小規模な新興住宅地や別荘地的な開発地が見られる。

■集落タイプ別の景観

集落を取り囲む山なみと集落地内道路との位置関係や、平面的な広がり方などの特性から、概ね4つのタイプの集落景観が認識できる。

<玉瀬・切畑>

- ・大きな谷筋とそれに交差する小さな谷筋や緩斜面上に形成された集落。
- ・道路沿いや農地の中に民家が位置する。



<大原野・境野>

- ・谷筋の交差部等を中心に大原野川沿いの広がりのある平野領域に形成された集落。
- ・山麓・道路沿い・農地の中など各所に民家が分散している。



<上佐曾利・下佐曾利・大原野西部・波豆・長谷>

- ・山の斜面や谷筋地形に挟まれた、細長い谷あい領域に形成された集落。
- ・主に山麓に民家が位置する。



<香合新田>

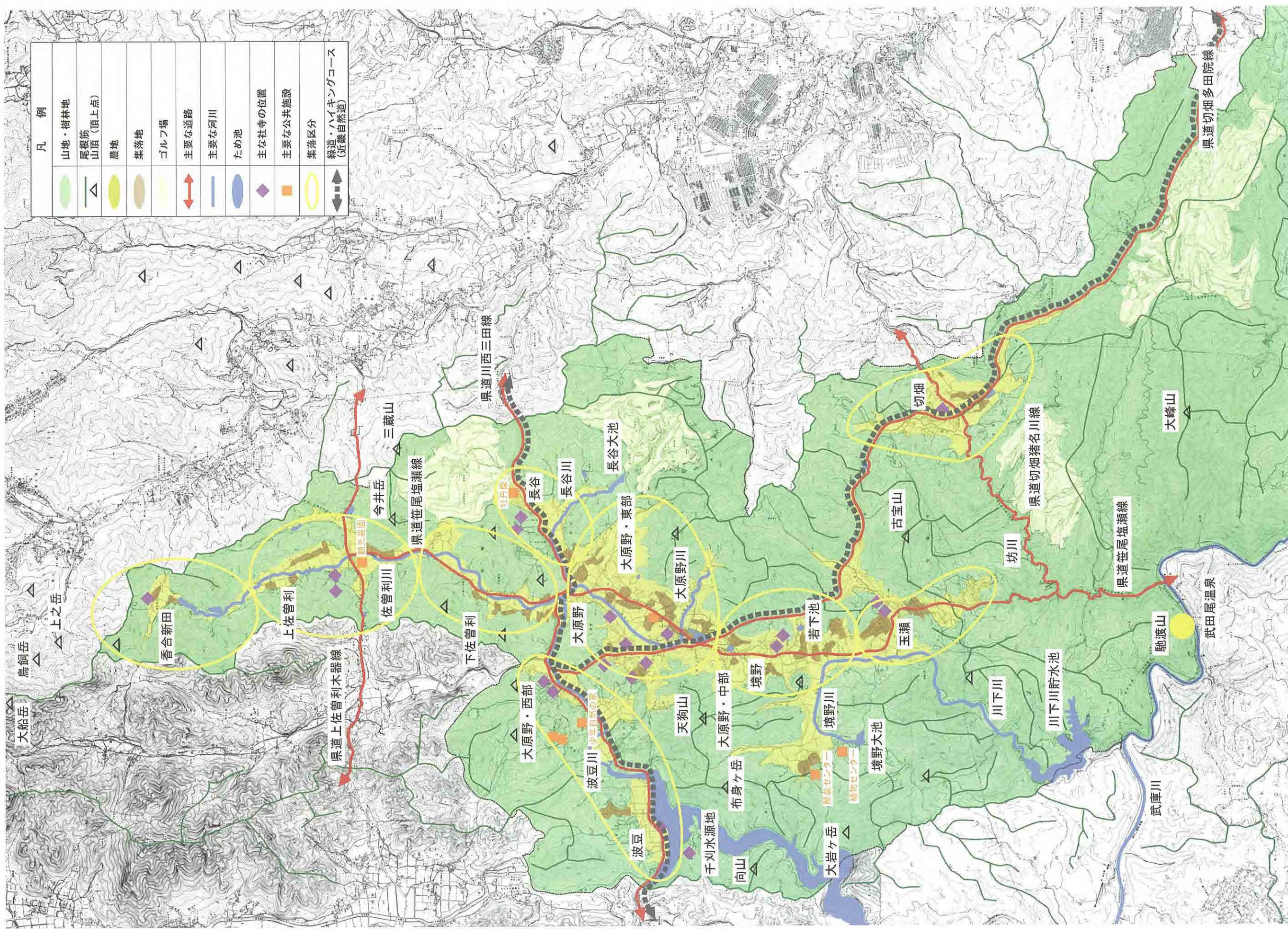
- ・南北に細長い谷筋の最奥地の山麓に形成された集落。
- ・谷筋の奥に民家が位置し、下流に向かって農地が広がる。



<地域の主な景観資源>

山、緑	谷筋沿い小丘・尾根地形（今井山・天狗山・竜王山・丸山など） 市境界の山並み・丸山湿原・松尾湿原・総合植物センター 神社・仏閣の社そう林
川・水面	佐曾利川、波豆川、大原野川、長谷川、境野川、そばが谷川（玉瀬川）、坊川、大ツラ川 千刈水源地、川下川貯水池 溜池・池
道路	県道川西三田線、県道下佐曾利笹尾線（県道笹尾塩瀬線）、県道上佐曾利木器線、県道切畑猪名川線、県道切畑多田院線、県道塩瀬宝塚線、第2名神自動車道（計画）
拠点	市役所支所、小中学校、診療所、郵便局等の公共施設 武田尾温泉
歴史的文化施設等 特徴のある建物・ 史跡 公共施設等	住吉大明神、万正寺、素蓋鳴神社、普光寺、法泉寺、薬師堂、普明寺、波豆八幡神社、宝山寺、大日堂、正覚寺、阿弥陀堂、大原野神社、須佐之男神社、普門寺、天満神社、満福寺、願宗寺等の神社・仏閣 かや葺屋根の伝統的家屋 旧東家住宅等指定文化財等の伝統様式の建物 史跡・湿原・指定樹木等

図3-6 西谷地域の景観現況の特性図



「地域Ⅶ （西谷地域）の景観」

歴史的沿革を経て、山林と農用地に囲まれた集落風景が保全されている。地域内は、河川が適切に維持・管理され、歴史的文化財が守られ、自然休養村、少年自然の家等の拠点の整備も行われている。



武庫川溪谷武田尾温泉地の
武田尾駅<701>(24-16)



武田尾の街道
<701>(44-11)



玉瀬 境野へ
<703>(44-19)



切畑 農業溜池
<702>(23-5)



切畑 塩瀬宝塚線景観に
分節を与える寺社等
<702>(68-35)



境野 普門寺
<704>(44-35)



境野 西谷地域では山麓と
田の間にある集落景観
<704>(44-35)



境野園芸家の園芸創造場
<704>(69-21)



境野川をのぼると酪農センター
植木センター等の固有空間がある
<704>(48-27)



境野 植木センター
<704>(48-33)

「地域Ⅶ（西谷地域）の景観」つづき



境野 植木センター帯の
水田などの溜池等による風景
<704>(48-35)



境野 酪農センター
<704>(48-38)



上佐曾利 塩瀬宝塚線が南下し、
佐曾利川に独自の工夫がしてある
<706>(24-2)



上佐曾利 佐曾利川上流の
上佐曾利の集落
<706>(49-34)



上佐曾利 タリヤなどの花き園芸
が古くから開拓される
<706>(24-4)



香合新田 佐曾利川への
水を活用する溜池
<706>(49-38)



長谷 山を背景とする
普光寺境内<706>(69-15)



大原野東部集落
<705>(49-17)



長谷 普光寺敷地に接して牡丹園
<706>(69-14)

「地域Ⅶ（西谷地域）の景観」つづき



波豆八幡神社と千刈水源
地 <707> (48-4)



大原野西部 川西三田線上
の宝山寺をもつ集落
<705> (46-22)



宝山寺の参道
地形を素直に生かした景観
<705> (46-25)



波豆川にある市民広場・自然
中でのレクリエーション活動
<707> (46-33)



波豆川のよどみ
<707> (47-16)



少年自然の家
民家を保存した民俗資料館
<707> (47-3)



少年自然の家 池、湿原、展望所
等の多彩な自然資源
<707> (47-8)



波豆の民家
<707> (47-23)



波豆川が流れ込む千刈水源
地 <707> (47-33)

(3) 景観形成の目標

- ・豊かな山々に抱かれた、自然と共生・交流する環境を育む
- ・山間の農村を取り巻く暮らしとともに、集落景観を守り・活用する

(4) 都市景観形成の方針

地域の景観形成の主要方針は次のとおりとする。

①水と緑のネットワーク景観づくり

- ・河川・溜池等の自然護岸の保全と水質の保全
- ・河川・溜池沿い・農道等を一体化したネットワークの形成と近畿自然道との一体化

②都市幹線道路などの沿道景観づくり

- ・県道笹尾塩瀬線、県道切畑多田院線、県道川西三田線、県道上佐曾利木器線等の沿道の土地利用誘導と景観整備
- ・地域内幹線道路などの歩行者ルート景観に配慮した田園居住地景観の育成整備
- ・集落道、農道、自然道等の維持・管理の徹底とネットワーク化による歩行者ルートの整備
- ・道路沿いの駐車場作り方に配慮した景観形成

③大原野付近での生活拠点の賑わいと利便性の向上、田園景観に調和する建築物等の誘導、拠点を節とした魅力ある地区景観づくり

④地域の歴史のサインとなる場の景観づくり

⑤各まち場での背景の山並と田園景観の独自性の継承、育成・整備

(5) 主要な景観づくりの方針

○水と緑のネットワークづくり

- ・谷筋の集落景観の背景となる山並みや丘陵の緑を保全し、自然地形と融合した田園景観を継承する。
- ・集落内では、農業体験の場ともなる農地の畦や水路沿いの道・道路を結ぶ歩行路を確保し、多様な活動や暮らしの場をネットワークする。また、樹林地内の林道や水源地・河川を結ぶ、快適な歩行者のレクリエーションルートのネットワークを確保する。
- ・市域南部～切畑～玉瀬～猪名川町を結ぶ山陽自然歩道を活用し、千刈水源地や社寺などの施設を結び、武田尾温泉や桜の園整備と連携した武庫川沿いの遊歩道の整備を進める。
- ・遊歩道等では、休憩広場等を整備し豊かな自然景観を楽しめる安全で快適な空間づくりを行う。
- ・主要な川沿いでは、並木の育成や休憩用の小広場づくりを行う。
- ・ゴルフ場では、緑地保全や環境にやさしい芝生の管理を行い、緑の景観を維持・保全する。
- ・JR宝塚線の廃線敷きを活用した歩行者ネットワークや観光資源としての活用を検討する。

○中心地や幹線道路沿道の特色ある景観の創出

- ・市役所支所や小・中学校、店舗の集積する中心地は、地域の拠点地区として利便施設の立地を促進するとともに、拠点地区として周辺地域と調和した建築物等のデザインの誘導等を検討する。
- ・幹線道路の沿道では、田園景観と調和した沿道の土地利用と建築物等の景観を調和させ、拠点を節とした景観形成を行う。さらに看板・サインなどの規制・誘導等を行う。

○集落の景観を守る

- ・農地・集落・集落周囲の竹林や屋敷林から背後の樹林へと連続する一体の環境を保全し、谷あいののどかな田園景観を継承する。
- ・伝統的な農家住宅、特にかや葺屋根の維持保全に積極的に取り組む。また、石垣や植木による特徴的な外構形態を生かし、周囲の緑と連続性を感じる景観を維持していく。
- ・農家住宅等の新たな建築や建替え時には伝統を尊重し、田園風景との調和、集落としての調和を検討し、デザインの規制・誘導を行う。
- ・道標や神社等の地区の歴史を伝える場を大切にし、ランドマークとして位置付けるとともに憩いの空間、集いの場としての整備を検討する。
- ・屋外広告物や看板の規制、電柱・電線類の整理・統合、道路占有物の整理など地区景観阻害要因の除去・改善をしていく。またサイン等の規制・誘導を図り、旧集落の趣きを醸成していく。

○憩いとふれあい空間を育む

- ・自然観察や農業や林内作業が行うことができる場を確保し、生活の歴史や自然との関わりを知る、実体験の場としても活用できるよう検討する。
- ・集落到接する里山については、野鳥や昆虫などの生息や炭焼きなどへの活用を考慮した樹種を植えるなど、適正な管理と活用を推進する。
- ・武田尾温泉は、“山間のやすらぎある温泉”としての風情ある温泉旅館街の街並み形成に努める。
- ・建築物等の形態・デザイン、看板などを規制・誘導する。
- ・周辺環境になじまない娯楽施設の立地・進出を規制する。

図3-7 景観形成方針図（地域VII）

